

大学院特別講義

(医歯学先端研究特論) (生命理工学先端研究特論)
(医歯理工学先端研究特論)

下記により大学院特別講義を行いますので、多数ご来聴下さい。

記

講 師：馬場 一美 先生

昭和大学 歯学部 教授

演 題：睡眠時ブラキシズム研究 Update

最新の研究成果と今後の展望

日 時：平成26年 2月13日(木)

18時00分 ～ 20時00分

場 所：7号館2階 歯学部第3講義室

講演要旨：

睡眠時ブラキシズムは睡眠中に行われる Grinding と Clenching の総称で、咀嚼筋活動を主体とした非機能的運動であり、国際睡眠関連疾患分類(2005)では、睡眠関連運動異常症と定義されている。ブラキシズム関連のトラブルは枚挙にいとまがなく、高度な知識と技術を駆使して渾身の治療を行っても、ブラキシズムの評価を誤り適切な対応を行わないと不幸な結果を招くことになる。これまで、齲蝕や歯周病についての多くの知見が積み重ねられ、それらは歯科医学の発展のために中心的な役割を担ってきた。また、近年の CAD-CAM を初めとするデジタル技術の導入、インプラント治療の進化は補綴歯科治療の質や予知性を飛躍的に向上した。一方で、顎口腔系に生じる“力”への対応、つまり臨床において“顎口腔系に生じる力をどう読み、それに対してどのような対応をすべきか”，という問題については未解決な点が少なくない。

1990年代以降、睡眠生理学的研究や生体力学的研究によりブラキシズム発生のメカニズム、ブラキシズムの顎口腔系への影響等について数多くの知見が集積されてきた。また、近年の分子生物学的手法を用いた研究により遺伝的背景の一端も明らかにされつつある。これらの情報を整理し正しい知識を得ることにより、睡眠時ブラキシズムに対して合理的に対応することができる。講演では睡眠生理学、生体力学ならびに分子生物学的手法をもちいた睡眠時ブラキシズム研究の最新知見と今後の展望を解説する。